

ジオポリ (2012年1月号=第102号)



(有)エナジー・ジオポリティクス代表
澁谷祐

(写真; ホルムズ海峡に出撃するイラン小型高速ボート=AP)

一触即発のホルムズ海峡

■ 30年続く断交状態

1979年11月に勃発したイラン・イスラム革命の結果、テヘランにある米国の大使館がイラン群衆に占拠され、米大使館員は人質になった。イランの原油輸出活動はストップし世界市場は混乱した。

当時クエイトから帰国したばかりの筆者は、IEA(国際エネルギー機関)が招集した特別演習プログラムに石油連盟から短期派遣されることになった。パリ本部にあるオペレーションルームにはシェル、エクソン、モービルやBPなどのオイルマンが集まり、国際的な石油再配給スキームの素案を3か月かけて作成した。当時はまだエクセルの表計算ソフトはなかったから、シミュレーションはカシオの計算機を持参した。

ある米政府関係者の部屋を覗くと「人質拘留260日目、きょう一日全員の無事を祈る」と書き込んだカレンダーが壁にかかっているのが見えた。(人質全員はその後420日ぶりに無事解放された)

この人質事件が今日まで30年余続く米・伊直接対決の幕開けになるとは当時予想しなかった。いま米・伊両国は断交したままホットラインもなく、「火薬庫の中で火遊び」を展開している。

■ イランの国有化・革命・戦争と覇権

ここで第二次大戦後のイラン石油供給停止の事件史^①をざっと省みたい。イラン問題

のルーツがそこに隠されているからだ。

1954年にイラン石油産業は国有化され、BP資産は接收されたが紛糾し44か月間にわたって生産活動は停止した。「イラン民族主義は英帝国主義に勝利」したとイラン国民は熱狂した。出光興産は国有化原油を買ったのでBPともめたが国際裁判に勝訴した。(日本も元気だった!)

1979年のイラン・イスラム革命(前掲)のとき全イラン石油労組は親米一辺倒だったパーレビー国王(当時)の退位を迫り、イラン全土の油田のバルブを閉めた。イラン産油量は6か月間停止した。国際原油価格はバレル当たり29.8ドル(現在価格=約100ドル)に跳ね上がった。イスラム革命は「崇高な聖戦」であり、米国に「大悪魔」のレッテルを貼って反米感情を募らせた。

1980年にイラクは国境画定条約の交渉決裂を理由にイランに宣戦布告した。戦域はペルシャ湾(アラビア湾)に拡大し、イラク空軍機はイランの油田、積出施設やタンカーを攻撃した。米国は劣勢に転じたイラクに積極的に肩入れした。イラン軍は海上戦の脆さを突かれた。

88年にイランの機雷に触れた米海軍艦船が損傷を受け、これに対して米軍はイランの軍艦や沖合原油掘削設備を破壊して報復した。イラン革命防衛隊(IRG)は米駆逐艦^②を奇襲し損傷を与えたがホルムズ海峡に対する影響は限定的だった。

^②米海軍はバーレンに強固な第5艦隊基地を建設しイランのペルシャ湾覇権を制した。

^①1970年代にサウジアラビアに抜かれるまでイランは世界最大の石油輸出国だった。

ペルシャ湾北部まで航路（1千km弱）は危険状態だったので、邦船は安全のため「日の丸船団」を編成し自衛した。

88年にイ・イ戦争終結までの3年間にペルシャ湾では合計370隻のタンカーが被害を受け船員300名が犠牲になった。戦禍によってイランの原油生産活動は3ヵ月間ストップし、国際原油価格は1バレル=35.7ドル（現在価格=100ドル弱）に跳ね上がり最高価格を更新した。

91年に湾岸戦争が勃発し、イラクがクエイトを侵略して失敗した後、ペルシャ湾は平静を取り戻した。しかしこれも束の間、イランの核保有問題と9・11同時テロ事件（03年）はペルシャ湾を再び波立てた。

■ 4回あったホルムズ海峡危機

本誌「ジオポリ」^③のバックナンバーを読み返せば、過去8年間に4回のホルムズ海峡の危機があったことが分かる。イラン核保有問題に絡んで3回、アルカイダによるタンカー攻撃の1回である^④。

カレンダー順に整理しながら見てみよう。

一つは、04年のイスラエルによる先制攻撃説であった。「悪の枢軸」イランは国際テロの支援国家であり、核をテロ集団に引き渡せばイスラエルに「致命的な危険になる」から予防攻撃が正当化されるというイスラエルのシモン・ペレス労働党首（04年当時）の脅迫だった。これに対してイラン側はホルムズ海峡封鎖を含むあらゆる対抗手段に訴えると応酬した（本誌04年8月号=第13号「いまそこにある危機」）

二つは、06年11月にイランによる高濃縮ウラン製造の動きを危険視した米国は、イラン先制攻撃を準備するため米空母2隻をペルシャ湾に派遣してイランをけん制し

た。これに対してイランは対艦ミサイルの発射実験を行い挑発した。米紙は「先制攻撃は07年3-4月か」とセンセーションに報道した。イランはいざとなればホルムズ海峡を封鎖する用意があると声高に宣伝した（本誌06年12月号=第41号「波立つペルシャ湾」）。

三つは、08年1月にホルムズ海峡の出口で米艦船とイラン革命防衛隊（IRGC）の小型高速ボートがニアミスしにらみ合った事件（冒頭写真）。国際海峡の上で妨害電波が飛び交う情報戦だった。「一触即発の危機だった」と米艦船指揮官は証言した。

しかし米軍の行った紅白戦争ゲーム（「02年ミレニアム・チャレンジ」のコード名）では米軍はイラン軍に大敗したという。狭く浅いペルシャ湾に大艦隊が閉じ込まれ身動きとれず「袋の鼠」になったからだ。

この大敗シミュレーションにショックを受け、米軍は作戦を建て直した。07年11月に米第5艦隊^⑤は、バーレンなど湾岸に在住する米国民の保護・避難と安全救出対策を含む総合大演習を行い陣容を立て直している。（本誌08年1月号=第54号「踊るホルムズ海峡の情報戦」）

四つは、10年7月、国籍不明の国際テロリストによる現実にあったタンカー攻撃。ホルムズ海峡出口付近においてアルカイダの乗った小型ボートが満載した日本の大型タンカー「Mスター」（16万トン）に体当たりした自爆テロだ。被害はかすった程度だったが、事件後、国土交通省などで行く事故原因調査委員会はテロの可能性について「否定できない」と結論した。アルカイダによるペルシャ湾を航行するタンカー攻撃は世界に衝撃を与えた。イランはテロ事件の関与を強く否定し「地震による高波とタンカー船長は誤認したのではないか」

^③ 03年イラク戦争のぼっ発を受けて発刊開始した。

^④ 逆説的だが、イラクとの長期戦争（前掲）のためイラン海軍は疲弊しホルムズ海峡封鎖の力はなかった。ところが湾岸戦争（91年）とイラク戦争（03年）の「対岸の火事」に助けられ海軍力はパワーアップした。OPEC原油の高騰が貢献した。

^⑤ 米第5艦隊はペルシャ湾、アラビア海、紅海、アデン湾、オマーン湾、インド洋の一部に加え、スエズ運河、ホルムズ海峡、バブアルマンデブ海峡をカバーしている。

と声明した。(本誌10年8月号＝第85号「海のアルカイダと日本の運命」)

■ ホルムズ海峡をめぐる主な動きと発言

米国の対イラン制裁問題はいよいよ臨界に達しつつあり、ホルムズ海峡は一触即発の危機に直面している。ホルムズ海峡の外に広がるアラビア海では2月までイラン軍事演習が計画されている。米空母が2, 3隻集結し、シーレーン(海上交通路)を警戒している。米・イ双方による挑発・脅迫の応酬が繰り返されるまま次第に軍事対立はエスカレートしている。ホルムズ海峡をめぐる主な動きと発言ぶりは要旨つぎのとおりである(1月22日現在)。

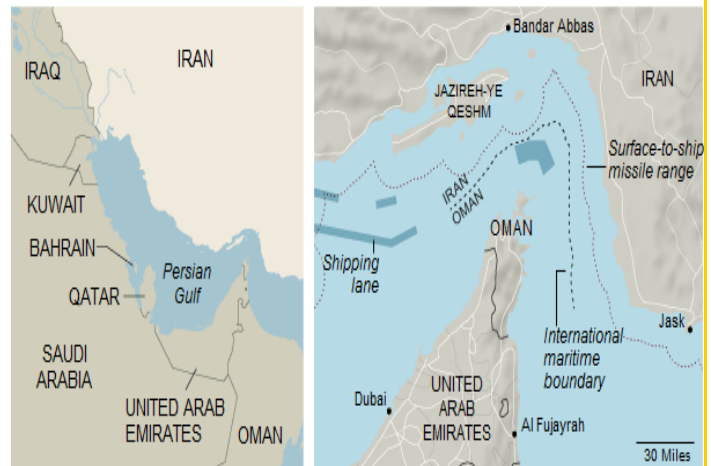
年月	内容	出典
11月20日	バーレンにある米海軍機関 Maritime Liaison Office (MARLO) は、「米国第五艦隊と同盟軍は、アラビア海パキスタン沖においてテロリストの捜索活動のため商船の臨検を実施している。米国及び同盟海軍に対し敵意があると認められた場合には、当該商船が破壊されることになるので付近航行船舶は注意されたい」旨警報を発令。	海上保安庁
12月24日	イラン海軍司令官は、「本日より大規模軍事演習「ヴェラーヤト90」が行われ、1月2日までの10日間にわたりホルムズ海峡からアデン海峡の北緯18度まで展開すると発表した」。<筆者注>ホルムズ海峡・オマーン海の東側から、北緯10度地域、アデン湾までの約200万平方キロメートルを作戰範囲として設定。	イラン Jam-e Jam 紙、(日本語で読む中東メディア)掲載
12月30日	米空母「ステニス」はイラン海軍の演習海域付近を通過した。イラン海軍司令官のアタオラ・サレヒ少将は、ステニス空母を含む米海軍艦船に対し、「イランは警告を二度も繰り返す習慣はないが、演習期間中にペルシャ湾に戻るな」と警告した。	Defence Talks
12月31日	オバマ大統領は、米軍はイラクから完全撤退が終了したと宣言した。オバマ米大統領はイラン制裁案を含む米国防権限法案に署名した。(制裁措置は60日から180	NYT 紙

	日の猶予期間後に適用される。)	
12月31日	海上保安庁はアラビア海北部における危険な訓練を通知し、航行警報を発令した(24年1月2日-6日、9日-13日、16日-20日、23日-27日、30日、31日。毎日0400Z-1700Z)。	海上保安庁

12年1月2日	イラン軍事演習「ヴェラーヤト90」の終了に際して、モハンマド・レザー・ラヒーミー第一副大統領は、石油禁輸になれば「一滴の石油もホルムズ海峡を越すことはできない」と強調。革命防衛隊のハビーボッラー・サイヤーリー司令官はホルムズ海峡の封鎖はイランにとって「一杯の水を飲むのと同じくらい容易」と強調。	Jam-e Jam 紙
1月4日	欧州政府はイラン産原油の禁輸措置に原則合意した。	各紙
1月4日	イラン軍事演習「統一の殉教者＝ヴェラーヤト90」の終了において、革命防衛隊報道官は、「非対称戦における戦術や技術が仮想敵に対して用いられた」と語った。	Jam-e Jam 紙
1月5日	英国のハモンド国防相は米ワシントンで講演し、テロ・海賊対策のため英米など有志グループ25カ国の海軍力がホルムズ海峡の海上交通を確保するカギになると語った。	NYT 紙
1月5日	I E A 協議では、ホルムズ海峡封鎖に対処するため米国・EU 諸国・日本の石油備蓄について世界市場に一日で原油(1千万バレル)とガソリン・ディーゼルなど石油製品(400万バレル)の合計1千400万バレルを放出することでまとまった。米エネルギー省によればホルムズ海峡を1日当たり約1千700万バレル(石油タンカー約8・5隻分)が通過し、世界の海上輸送石油の約4割を占める。	「ロシアの声」
1月8日	イランのアッパーシー原子力庁長官は、「2月の革命記念日に、ブーシェフル原発の全性能の環境が整い、またコム・フォルドゥーの濃縮工場の開所式がまもなくある予定と発表した。	Jam-e Jam 紙
1月8日	イランの有力紙ホラサンは、革命防衛隊のアリアシュラフ・ヌール	Jam-e Jam 紙

	上級司令官の談話として、イラン政治指導層は、イラン産原油輸出が阻害されればホルムズ海峡を封鎖する戦略的決定を行ったと伝えた。	
1月8日	イランのメヘル通信は、イスマイル・コウサリ議会国家安全保障・外交委員会委員の談話として、1月27日から軍事演習「偉大なる預言者」の実施を決めた。	Jam-e Jam 紙
1月8日	パネッタ米国防長官は、CBS テレビで、「ホルムズ海峡封鎖は超えてはならないレッドライン（最後の線）である」と警告した。デンプシー統合参謀本部議長は「米国は 仮に封鎖されても打ち破ることが出来る。封鎖は米国のみならず世界にとって耐え難い行動である」と談話した旨、報じた。	CBS テレビ
1月10日	イラン革命裁判所は、元米中央情報局（CIA）工作員のイラン系米国人アミル・ヘクマティ被告に対しスパイ罪で死刑を宣告。	Jam-e Jam 紙
1月11日	アラビア海に向けて、空母「アブラハム・リンカーン」と空母「カール・ウィンソン」機動部隊が移動している。アラビア海にはすでに空母「ジョン・ステニス」機動部隊が存在している。英国は駆逐艦をペルシャ湾に派遣した。	「ロシアの声」
1月12日	イランの核科学者の暗殺・テロが発生。「米・イスラエルのテロリストの犯行」とイラン国家安全保障外交政策委員会の報道官は声明。	Jam-e Jam 紙
1月12日	オバマ米大統領はイランのハメネイ師に対し、匿名ルートを通じて、ホルムズ海峡の封鎖は越えてはならない「レッドライン」である、とのメッセージがイラン首脳に伝えられた（NYT紙）。16日イラン外務報道官は、このメッセージはイラク大統領とイラン国連大使を介して届けられたと確認し、「もし必要ならば、イランは適切な形で返答を行うだろう」と述べた。	NYT紙 Jam-e Jam 紙
1月18日	イラン制裁の影響により原油価格が200ドルを超えるという予測もある。原油のみならずLNGに対しても大きな影響がある。世界のLNGの3割超がホルムズ海峡を通過し、LNGは20日分	経産省 審議会

	程度しか備蓄できない。	
1月17日	サウジアラビアのトルキ・アル・フェイサル王子・元サウジ諜報庁長官は、湾岸安保会議（バーレン）で講演し、「サウジアラビアはイランによる脅威にはあらゆる手段で自衛する」と述べた。	アラブ・タイムズ紙
1月18日	ロシアのラブロフ外相は、モスクワで西側諸国などによるイランへの軍事攻撃に反対する姿勢を改めて強調した。	タス通信



左地図；ペルシャ湾＝アラビア湾
右地図；ホルムズ海峡出入り口付近
(いずれも NYT 紙、1月13日)

■ むすびに替えて

米国、イスラエルとイランの低強度レベルの非対称戦（国際テロ、核科学者暗殺、サイバー攻撃や心理戦・かく乱戦）は既に先行し激化している。ささいな小競り合いが大量報復にエスカレートするハイリスクを当事国は冷静に計算しなければならない。

ホルムズ海峡封鎖の可能性を予想することは難しい。筆者は過去の例から、60%は「ない」と思う。「あるかもしれない」確率は30%ある。その場合「封鎖は1、2週間で終わる」あるいは「3カ月は続く」可能性も半々ずつある。「ある」という確率は10%残っている。なぜなら①オバマ、アハマドネジャド両大統領はいずれも政権基盤が弱く強気的外交を迫られている②あせるイスラエルの先制攻撃をかわすためという理由だが、客観的な判断基準はない。筆者の勘である。

Copyright EGLJ 2012